
閉会あいさつ

埼玉県合同輸血委員会 世話人 南 陸彦

皆さん、大変お疲れさまでした。本日は、本当に実の詰まった素晴らしいお話を伺いました。少々疲れもあるかとは思いますが、大変充実した半日であったと思います。

特に、合同輸血療法委員会の下、輸血業務の小委員会ですね。これは今年度発足した小委員会ですが、これから取り組んでいく幾つかの重要な課題を挙げていただきました。これらを解決できれば、埼玉県における、血液製剤の使用は、大変質の高いものになると期待しております。

後半の方の、大病院での各分野での輸血医療についての発表は、今回は2つの分野でございますが、このような分析を通して、こういった先進的な医療における血液製剤の適正使用がしっかりと根づいてゆくものと思います。

それから、特別講演の高松先生の講演では、フィブリノゲン、これ自体は新しいということではあ

りませんが、フィブリノーゲンの適切な使用により、大量出血を効率良く止めることができるということを、分り易くお話いただきました。

このようなことを考えますと、現状が続いた場合には16年後に100万人の血液が足りなくなると言われていますが、おそらく私たちの取り組みが順調に進めば供給量、つまり、血液の需要量自体がずっと下がっていくのではないかと思います。そういうことを考えれば、16年後も決して怖くはないのかなと思いました。

これで、この2回目の埼玉輸血フォーラムは終わりになりますけれども、この合同輸血療法委員会を通しまして、少なくとも埼玉県内の血液製剤の使い方が適正であって、願わくは全国のモデルになることを祈念致しまして、閉会のあいさつとさせていただきます。

本日はどうもお疲れさまでした。